

# 下北夏秋いちご生産情報

令和7年5月

下北農林水産事務所  
農業普及振興室

越年株ではハダニ類が3月頃から、アザミウマ類は5月中旬から発生が多くなっており、防除が本格的な防除時期となっているほか、近年は夏期に高温傾向となっていることから、暑熱対策の準備が必要な時期になっています。

- ① 害虫防除は、管理作業後及びローテーション散布で、効果的に行いましょう
  - ② 近年、着果不良・ヤケ果の発生が多いです。暑熱対策の準備をしましょう
- 農薬は適正に使用しましょう  
農作業安全及び、その原因となることが多い熱中症の対策をしましょう

## 1 害虫防除

高品質多収のためには、害虫防除は重要な事項。様々な防除を組み合わせることで、農薬だけに依存しない病害虫や雑草の管理を目指す（IPM）。

- (1) 施設内への害虫の侵入防止のため、施設開口部へ防虫ネットを設置する。  
アザミウマ類は赤色ネットでは0.8mmで侵入防止の効果があるが、同時に通気性が悪くなる点に留意する。
- (2) ハダニ類やうどんこ病など病害虫をもちこまないようにするため、育苗期の病害虫防除を徹底する。
- (3) ハウス周辺で開花しているシロツメクサ（クローバー）、タンポポはアザミウマ類の増殖場所となる。→ 雑草が開花する前の除草、マルチや除草シートを活用する。
- (4) 粘着トラップ活用により害虫密度低下を図る。

黄色	青色
コナジラミ類、アブラムシ類、ハモグリバエ類、アザミウマ類	アザミウマ類

- (5) 薬剤散布  
ア 摘葉や花房整理により株がすっきりした状態で行う。害虫が低密度かつ葉裏まで薬液がかかりやすくなり効果的である。  
イ アザミウマ類は、ヒラズハナアザミウマが主な発生種である。冬期に9.5℃以下とならない環境や、他の果菜類を栽培している場合は、ミカンキイロアザミウマも発生するので薬剤選択の際留意する。  
ウ ハダニ類は、葉裏に多く寄生するので摘葉や収穫時等、発生状況を常に観察し、卵～成虫に防除効果がある薬剤で散布計画を立てる。  
※ RACコード参照により、ローテーション散布に努める。

(6) 天敵昆虫、微生物農薬を取り入れる。

ア ハダニ類

⇒ チリカブリダニ、ミヤコカブリダニ

イ うどんこ病、アザミウマ類、アブラムシ類、コナジラミ類、ハダニ類

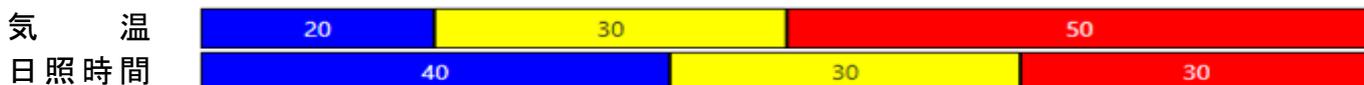
⇒ ボタニガードES (5.29,2025 現在)

## 2 暑熱対策

高温は、虫害発生の増加、着花・着果不良、日焼け果、奇形果等、いちご生産に多くの悪影響を与えるほか、労働環境上も問題となる。

(1) 気象情報

1 か月予報 (5/31~6/30、%)



3 か月予報 (6~8月、%)



(2) 生育段階別の目標温度

生育段階	目標温度
定植~開花始め	日中 18~23℃
開花始め~収穫期 (高温期)	日中 20~24℃ ミツバチの活動適温 18~25℃ 果実の肥大適温

(3) 高温対策及び注意点

ア 換気

ハウス出入口、サイド、妻面を開放する。全面開放。30℃以下になるように努める。

雨天は、葉に直接雨が当たらない程度に行う。

※ 鳥獣害対策を行う。

イ 遮光

遮光・遮熱資材の展張や遮光剤の被覆への塗布による。

日照不足が長く続く時に遮光し過ぎると減収、多窒素条件下では白ろう果の発生を助長するので、不要な際は直ちに除去できることが好ましい。

ウ クラウン部冷却

地上のクラウン部に触れるように配管したものに通水する。

## 3 その他

越年株の場合は摘葉後の土寄せにより根量増加を図るほか、適切な水分管理で葉、果房抽出の促進を図る (pFメーター活用を推奨)。